

**環境経営を「深化」させ、
地球市民の使命として持続可能な社会づくりに貢献するとともに、
これからも成長を続ける企業を目指します。**

世の中から存続を望まれる企業を目指して

これからの企業は、社会に対する責任を果たしながら、企業本来の役割である企業価値の増大や、利益の創出を図っていく必要があります。企業の社会的責任とは、コンプライアンス（法令遵守）を前提として、社会のニーズに応え、自ら高い目標を掲げ、その目標に向かって自主的に責任をもって活動し、新たな付加価値を生み出し続けることであり、それによって社会から愛され、存続を望まれる企業を目指すというものです。リコーグループは、社会的責任経営を企業価値の創造ととらえて積極的、能動的に進めるとともに、グローバルな展開を視野に入れて推進することで、持続可能な社会づくりに貢献していきたいと考えています。

地球環境保全は私たちの使命

私たちの地球は、豊かな包容力をもってさまざまな生物を育み、人類の広範かつ活発な活動を支えてきてくれました。しかし近年の人類の活動は、地球の包容力の限界を超え、多様な生物との共存はおろか、私たち人類の存続さえも危うくしています。現在、気候変動による被害が世界中で多発していますが、気候変動が人間の活動と関係のあることは科学的にも裏付けられ、すでに議論の段階は終わりました。すべての人が一刻も早く今まで以上に積極的に環境保全に取り組んでいかないと、この危機的な状況を解決する機会すら失ってしまうことになりかねません。環境保全に取り組むことは、地球市民としての使命であり、最も重要な企業の社会的責任であるとリコーグループは認識しています。

リコーグループの環境経営

環境保全の目的は、環境負荷が地球の再生能力の範囲内にとどめられた、持続可能な社会を実現することにあります。またそれは、一過性の活動ではなく、継続的な取り組みでなければ実現できません。そして、企業としての継続性のある活動は、その主体である企業の存続、いや成長と発展があつてはじめて実現できるものです。そのためには、環境保全活動を通じて、経済的価値を創出していく必要があります。リコーグループは、環境保全と利益創出の同時実現を「環境経営」と称し、グループを挙げて活動を展開してきました。2006年度の環境会計では、183億円の費用に対して245億円の実質的経済効果、さらにリスク回避やブランド価値の向上といった成果まで含めると346億円の経済効果を生み出した計算になります。

環境経営を「深化」させ、成長を続ける企業へ

世界は環境保全に向けて、確実に動き始めていますが、環境は依然“待ったなし”の問題です。今後、人間社会は、その存続をかけて、環境負荷の少ない持続可能な社会に向かって急速に変化していかねばなりません。では企業は、どのように進化していくべきでしょうか。将来の社会と自社のあり方を明確に認識し、社会の望ましい変化に貢献できる企業へと進化する必要があります。そして、そのような企業こそが、競争力をもち経済的にも発展できる持続可能な企業なのです。リコーグループは、環境保全と利益創出の同時実現をさらに高いレベルで追求し、環境経営を「深化」させていくことで持続可能な社会の実現に寄与し、成長を続ける企業を目指します。

「全員参加の活動」と「環境技術開発」で 環境経営を推進

リコーグループは、「Three Ps Balance」によって人間社会と地球環境の目指す姿を描いています。そして、2050年に先進国は環境負荷を1/8にする必要があるという認識を「超長期環境ビジョン」として表し、その考えに基づいた中長期目標を設定した上で、具体的な環境行動計画を遂行しています。私たちは、経営のあらゆる側面に「環境」の視点を取り入れ、より実効性のある環境保全を行うために、開発や製造はもちろん、企画、販売、そして国内、海外、すべての部門の「全員参加の活動」を推進してきました。今後は、より広範に環境技術開発を進めることで、現在の事業分野はもちろん社会全体での環境負荷削減にも貢献し、社会のより良い変化に寄与していきます。

自然の回復力を高める活動

すでに多くのダメージを受けている地球環境が回復するには、私たちの事業や社会の環境負荷を削減するだけでは不十分です。空気や水、肥沃な土壌などをもたらす、生態系の力の維持・回復が重要です。リコーグループは、企業の環境保全活動の最終目的は、人間社会の存続に不可欠である、生態系のバランスを回復することであるという考えのもと、とくに生物多様性の高い森林生態系に着目し、NPOや現地社会とのパートナーシップで、その保全や修復に取り組んでいます。

ステークホルダーの皆様とともに

持続可能な社会は、リコーグループだけで実現できるものではありません。お客様や仕入先企業、NPO、行政、地域



代表取締役 社長執行役員 近藤史朗

社会などステークホルダーの皆様との環境保全の「環」を積極的に拓き、目指す姿を語り、お互いに示唆・協力しながら、それぞれの立場で環境負荷の削減を推進していくことが重要です。さらに、ステークホルダーの皆様とともに環境経営の成功事例を作り、これを社会に示していくことも重要であると考えています。

報告書をお読みの皆様へ

リコーグループは、環境経営の考え方や、グローバルな環境経営の進捗を情報開示するために、継続的に環境経営報告書を発行してきました。私たちは、世界中の多くの方々と、国境を超えた環境問題について語り合いたいと考えています。私たちの考えや活動を多くの方にご理解いただき、また、私たちの環境経営の質を高めていくためにも、忌憚のないご意見をお聞かせください。